

翁久允賞を受賞して

この度、公益財団法人翁久允財団より令和2年度翁久允賞をいただきました。富山の文化に大きな功績を残された翁久允氏の名を冠した賞をいただくことは大変光栄なことであり、心より感謝申し上げます。

ここ10年以上にわたって詩人・高島高の研究を進める中で、翁氏が富山という地に、いかに豊かな土壌を作り上げ、文化を育まれたかを知りました。高島高は戦前から戦後にかけて、翁久允主宰の郷土研究誌「高志人」に130を超える詩や随筆、書評、詩評、小説などを毎月のように寄稿し、自身の創作、思想の発表の場の中心として同誌を捉えていました。それは翁氏の支えによって、二人が大きな信頼で結ばれていたことを示すものでもあります。高は、翁氏について次のように記しました。

自由人であるべく許されるたつた一つの世界、藝術の中で、しづかに傷を癒そうとした作者を。そして作者のあたゝかさに、人間的な血に、はじめて拍手を送るのが至當なのだ。(高島高〈「アメリカ・ルンペン」と「大陸の亡者」〉「高志人」1947年3月号)

今回の賞を励みとさせていただき、自分のライフワークとしての高島高研究を進めていきたいと思っています。今後、翁久允、高島高に関するより深い研究が進み、二人が生きた富山で、文化が益々豊かな実りを結ぶことを心より願っております。

2021年3月

伊勢 功治